

会 議 録

会 議 名	令和元年度東浦町パートナーシップ推進事業 事業報告会	
開 催 日 時	令和2年6月24日（水） 午前9時から午前9時35分まで	
開 催 場 所	文化センター 視聴覚室	
出 席 者	委員	吉村輝彦委員長、牧野清光委員、野村雅廣委員、 高見靖雄委員、戸張里美委員
	事務局	長坂課長、筒香補佐兼協働推進係長、山田主事
	採択団体	東浦地域ねこの会
議 題	1 令和元年度東浦町パートナーシップ推進事業 事業報告	
非公開の理由		
傍聴者の数	7名	
審 議 内 容 (概 要)	委員の出席及び会議の成立を確認	
	<p>議題</p> <p>1 令和元年度東浦町パートナーシップ推進事業 事業報告</p> <p>令和元年度東浦町パートナーシップ推進事業採択事業（テーマ特定型1件）について、プレゼンテーション形式で報告を行い、各団体の報告の後、それぞれ質疑応答及び講評を行う。</p> <p>審査委員からの質疑応答及び講評の後、参加者からの質疑の時間をとった。</p> <p>実施事業の概要、質疑応答及び講評については下記のとおり。</p> <p>(1)「野良猫による環境問題の改善」（テーマ特定型）</p>	
	事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・野良猫の数を不妊去勢手術により、人道的に減らし、野良猫による住民トラブルを減らす。 ・無責任なエサやりの改善を図り、環境美化を目指す。 ・地域住民への猫の適正飼育、地域猫活動の周知を広げることにより、人と猫が共に暮らしやすい東浦町にする。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の問題（猫の糞や尿に対する衛生問題・猫のゴミあさりなどの環境問題・猫のさかりの鳴き声の問題など）を把握する為に回覧でアンケートを行う。 ・野良猫の生息状況の把握・情報収集を行う。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・飼い猫の適正飼養の普及・啓発活動を行う。 ・TNR-M 活動を実施。 <p>(猫を捕獲する・不妊去勢手術を施す・元の場所に戻す・その後の猫の管理を行う)・術後の猫の給餌・トイレの管理 (マネジメント) を行う。</p>
事業成果	<ul style="list-style-type: none"> ・所有者のいない猫の TNR-M 48 匹 ・町内苦情件数は 14 件 (平成 30 年度) から 11 件 (令和元年度) に減少
その他 (今後の活動について)	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、活動を続けていくためには自治会や区など地域の協力を得ることが肝要になる。

(委員)

昨年の審査会では、雌猫の手術のみについて地域ねこの会が一部手術費を負担するとのことだったが、緒川区の 1 匹 5,000 円の補助は想定していなかったのか。

(東浦地域ねこの会)

緒川区の補助金は想定していた。

(委員)

繰越金など、昨年度の審査会時に提出された収支予算書と収支決算書に齟齬がある。

不妊去勢手術の目標が 100 匹であったところ、実績が 48 匹であったことについて頭数が伸びなかった理由、今後の活動方針を教えてください。

(東浦地域ねこの会)

地域ねこ活動はボランティアではなく地域住民が主体となることが基本であるが、発起人のような先導者がいなければ活動を進めることが難しい。平成 30 年度は緒川区からの補助があり、また地域ねこの会が主体となっていたため、地域住民には個人の負担金もなく、ねこの運送や病院の手配、捕獲をボランティアが行っていたため、個人で行う必要もなかった。

そのため 100 匹という目標を立てていたが、ボランティア側が地域ねこ活動に時間を割かれ、個人の家庭生活を顧みることができなくなってしまった。ボランティア主体のままでは活動を続けていくことが困難になっていたが、愛知地域猫実行委員会にて、ボランティアではなく地域住民が主体となって行うべきだという話を聞き、

そのやり方であれば活動を続けられると判断して方向転換した。

そのぶん住民負担が増えたため、地域が結束して地域ねこ活動を始めない限りは、地域ねこの会としても手伝いができなくなった。そのため、実績の頭数が減っている。

(委員)

今後の活動としては主に相談に乗るという形になるのか。

(東浦地域猫の会)

活動自体は常に動いている。相談があった地域については、継続的に区長さんに話をし、実施方法の提案をしたり、地域ねこの説明会を行った際に、地域住民と一緒に活動していけるよう説得したりしている。地域によってはすぐに協力が得られるところもあるが、協力者が見つからず未だに活動ができていない地区もある。

(委員)

寄附金はどのように集めたか。

(東浦地域猫の会)

周知活動として保護猫の譲渡会&バザーと、なないろマルシェ、産業まつりへの出展を行った際に募金箱を置いた。

(委員)

今年度からは町からは手術費の補助金が出るが、活動に対する補助はなくなるため、寄附を積極的に活用してほしい。

最後に吉村委員長よりパートナーシップ推進事業全体について、総括としての講評をいただいた。

(委員長)

パートナーシップ推進事業として、事業の計画の仕方、予算収支の出し方など見なければいけないところがあるなど思った

自発的にやる活動の限界の話をしていただいたと思うが、コミュニティを中心にやってもらうのも簡単ではない。ボランティアベースでやるか地域でやるかの二者択一にするとうまくいかないのではないか。地域ベースで行わなければならない活動は、地域ねこ活動に限らず、福祉分野にしる環境分野にしる様々にある。従来からのコミュニティや地縁型組織がありとあらゆる活動をやるべきということでもない。自発的な動きと地域の活動がお互いの利点をうまく組み合わせられるかが大事だと思う。

課題や関心事に共感を広げていく形で物事を進めていくやり方をしていけるかどうか。説得して、納得させるのではなく 相手の理由ではなく、自分たちの活動がどうやって共感を生み出しているのか、どこからどのような展開があるのかをもっとやっていく必

要がある。自治会や地域の体制ができないと自分たちの活動ができないとなると、それはゼロかイチかの関係になってしまう。共感を広げながら地域の中に組織としてやるのは難しいかもしれないが

活動記録に出てくる人は、必ずしも地域組織の人ではないと思う。そこからどうやって活動していけばいいのかという動き方がまだまだ知りえていない、きっかけがない、どういう人と一緒にやればいいのかなど、悩ましいところがあると思う。

会主導から住民主導へ、ではなく、その中間くらいのところを模索できないか、今まで自分たちがやってきた活動、活動に関わってくれた人、イベントに集まってきてくれた人と重ねあわせながら、何をやっていけばいいかを探求した方が良い。

野良ねこに対する危機意識をあおるのは一つのやり方ではあるが、それだけでは限界がある。柔らかに包み込みながら活動をしていろいろな人と知り合い、猫を通じたふれあいなどと上手くつなげていき、皆さんの活動、組織がどんなことをできるのかを考えることが必要。

自分たちには限界がある、じゃあ地域にお願いしますということにも限界がある。過剰に期待すると、お互い負担な関係になる。二年間の経験を踏まえて、新しいやり方を探求して提案していけるといいと思う。

資料について修正をするという話があったが、いいことをやっている団体がちゃんとした形でやっていることを見せていくことが共感を広げていく上で大事だと思う。